

(別紙2)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年5月13日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3992000012
法人名	社会福祉法人 緑風会
事業所名	グループホーム 慎太郎
所在地	〒781-7412 高知県安芸郡東洋町大字河内字王子田353-1
自己評価作成日	平成22年1月16日
評価結果市町村受理日	平成22年5月21日

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3992000012&amp;SCD=320">http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3992000012&amp;SCD=320</a>
-------------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームでは、地域密着型の事業所としての特徴を生かし、小人数で生活することで家庭的な雰囲気と安らぎを提供し、認知症予防への取り組みとして、家事活動の援助（調理、清掃、洗濯、菜園など）、レクリエーション援助（学習療法、音楽療法、運動療法、個別・グループレクなど）、地域行事への参加（ボランティア活動、お祭り、運動会、ほか）などの余暇時間の充実に努めている。また、ハード面では、システムキッチン（オール電化）、個別浴槽、トイレ、洗面台の自動センサー、室内冷暖房完備、コールピッチ対応などの充実を図るとともに、専門スタッフによるケアの提供と、個別ケアを取り入れ、自己選択・自己決定ができる環境を提供し、可能な限りの自立支援を目指している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、穏やかな海水浴場や林野など、自然環境に恵まれた県境に位置し、徳島県からも4名の方が利用している。利用者は、静かな居住環境のなかで、ゆったりとくつろぎ、敷地内の畑で野菜を栽培したり、鉄道の駅前の花壇での花づくりなど、地域の美化活動に進んで取り組んでいる。また、隣接のデイサービスセンターの利用者や幼稚園児との交流、婦人会ボランティアとの触れ合いを楽しみにしている。事業所としては字単位の地区会に加入し、清掃活動や運動会、お祭りなど、地域の一員として日頃から地域住民とお付き合いがあるなど、地域に溶け込んだ運営を目指している。職員は、利用者の尊厳の保持と個別ケアを念頭に、日々実践に取り組んでおり、今後も、利用者にとって馴染みの空間、地域、人との触れ合いを大切にして発展していく期待が持てる事業所である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際、年訓・グループ訓と同様に唱和することで、管理者、職員ともに理念を踏まえた上での業務遂行に努め、入居者家族にもその都度説明し理解を求めている。	法人理念をもとに、事業所独自の理念を作成している。朝礼、職員会等で理念について復唱したり、再認識し、利用者一人ひとりに沿ったケアの実践をしている。	
2	2	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や地域の催し物に可能な限り参加し、会費、寄付金や御神酒奉納など実施している。近隣民家へ毎年秋に「菊」を見に行かせて頂いたり、施設行事への参加やボランティア参加など依頼している。	地区会に加入し、清掃活動や運動会、神事などの催しに参加したり、幼稚園児や婦人会ボランティアと交流している。また、利用者は駅前での花づくり奉仕など、地域の一員として活動している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体験学習やヘルパー2級取得実習生の受入を行ったり、地域や婦人会などのボランティア活動に入居者と職員が共に参加することで認知症高齢者への理解や援助法を共有できている。	/	/
4	3	<b>○運営推進会議を活かした取組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設サービス、行事、取組みについての実施報告や外部評価実施報告など行い意見交換をしている。委員の提案を受けて初めて風鈴列車を乗車したほか、感染症発生の季節には議題に「感染症予防と対策」をあげ、委員の方々にも予防、対策の知識や理解を深めている。	事業所から運営状況等について報告を行い、参加委員から意見、提案が出され、双方向的な会議となっている。また、前回評価の結果についても協議し、町内会には入らず地区会員として活動する方向とするなど、運営に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b></p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>事業所の管轄は市町村であり、運営を行うに当たっての連携は欠かせないため、担当者をはじめ各福祉機関と情報交換を図りながら運営につなげている。また、居宅支援事業所職員との交流の中からサービスについての向上にも努めている。</p>	<p>運営やケアについて、担当課の職員やケアマネージャーに相談したり、ヘルパー養成実習生の受け入れや、地域サポートボランティア活動への参加など、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>認知症高齢者対象事業所としての安全対策とは別の視点で、日中は玄関に施錠していない。センサーも設置しているが頼ることなく、職員が連携して対応している。身体拘束については、指針やマニュアルに基づき全職員が理解しケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する指針、マニュアルに基づき、職員会等で理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関に施錠せず、拘束をしないリスクについて家族に説明し理解を得ている。帰宅願望のある利用者が外出した時は、職員がさりげなく同行するなど、支援している。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入居者の自尊心や羞恥心、尊厳に考慮したケアや声かけの実施に努めている。サービス提供に当たっては、全職員が話し合い認識を持って取り組んでいる。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、1名の入居者が制度を活用しており、月1回の担当者の訪問で利用料や日用品購入の支払いを代行している。制度については、職員も理解し、必要に応じ活用ができるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者と家族の大きな関心は利用料等に関することであり、利用料金について詳細に説明するよう努めている。説明を行うに当たっては専門用語の使用は控え、解り易い言葉を選らんでいる。不安や質問事項について何度もお聞きし理解と納得を得られるようにし、入居後もその都度対応している。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には、事業所で生活を送る中で、意見・要望を聞き対応しているが、困難な場合は入居者、家族、職員とで話し合い対応策を検討している。 家族は、面会時や利用料支払、電話連絡などの機会を利用し意見や苦情を聞き、速やかな対応に努めている。また、各ユニットの玄関に「意見箱」を設置し、苦情申出窓口を設けている。	利用者の要望は、日々の暮らしの中で意見をくみ上げるようにしている。家族の意見等は、家族会や面会時や電話連絡の際に、利用者の意向も含めて聞くなど話しやすい雰囲気づくりに配慮している。苦情や意見に対しては、内容等を検討のうえ利用者、家族に説明し、職員間で共有している。	
11	7	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼、月1回の職員会議、年2回の職員対話、給与（賞与）支給時やその都度、問題提議や意見など聞く機会を設け、改善すべき点は全職員で意見交換し反映している。また、月間目標に意見や相談事項など書き添えている場合もある。	職員とのコミュニケーションを大切にし、職員会や月間目標を立てる機会に意見、提案を聞くようにしている。ケアの工夫や業務の役割などについて、運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や勤務状況など管理者が充分把握し、頑張る職員を応援する給与査定に努めている。また、正規・非正規職員に関わらず何事も話し合い、助け合える職場の環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修の実施と外部研修に参加している。また、事業所内においては業務をしながら日々、職員個々の能力に応じ指導している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市町村、法人の研修に参加し、他事業所の職員と交流を持ち、取り組みの違いや取り入れたいことなど、情報を収集してサービスの質の向上に活かしている。また、他の事業所等で実際に業務を行う「職員Exchange」への参加も実施している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に見学時や自宅訪問時に話を聞いている。自宅での会話が本人の緊張感がとれ、ゆっくり話を聞くことができ、家庭環境等も拝見し事業所の生活に活かすように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の前では言いにくい内容もあるが、ご家族が相談に来られることが大半であり、在宅での生活状況を具体的に伺いながら、家族の介護軽減と本人にとって良い方法を助言し選択の上、決定できる方向に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族からお話を聞き、個人情報（既往歴・現時点での病状・ADLなど）も把握した上で、本人、家族のニーズに応じた支援について検討している。事業所での対応が困難な場合は、近隣の事業所と連携を図るなど、可能な限り要望に応じていくよう努めている。</p>		
18		<p><b>○本人と共に過ごし支え合う関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の出来る事を探し、家事活動、菜園作りなどの役割分担をし、職員と入居者が共に事業所での生活を支え合う環境づくりに努めている。（調理ほか、入居者から学ぶことが多い）</p>		
19		<p><b>○本人と共に支え合う家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者援助に当たっては、家族の協力は重要である為、日頃から職員と家族が入居者の状態について情報交換し、本人の要望や緊急時対応に備えるように努めている。</p>		
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの商店や美容室・医療機関の利用を継続し、人間関係が途切れないように援助している。知人への面会や連絡依頼、郵便物などの援助をしている。</p>	<p>友人や親族の訪問を受けたり、馴染みの量販店や美容院を利用している。また、出身地の桜観賞に行くなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。</p>	<p>利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関わりについて、家族の協力も欠かせないものである。現在、家族が対応している関係先等を事業所としても把握し、今後、家族と事業所が連携して、更に馴染みの関係を継続して支援する取り組みを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士は互いに支え合い、良い関係づくりができていますが、まれにトラブルになる事もあり、良い関係が壊れないように、職員がクッションの役目を行っている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の案内状や便り、年賀状などを郵送している。在宅復帰された方には、状況に応じ同法人のデイサービスやデイケアを紹介し、残存機能維持を勧めている。地域で出会った際にはお互いに近況報告などし合ったり、情報交換をしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を送る中での行動や発する言葉より気持ちを汲み取り、本人からの希望や意向に沿うよう支援している。困難な場合は本人、家族、職員とで検討し本人の一番良い方法を選択してケアにつなげている。	利用者の好むことや楽しみ事を念頭に置き、自己決定できるような場面づくりを声かけしたり、会話や表情、仕草などから利用者の思いや意向を把握している。困難な場合は、生活歴等や家族から情報を得て、本人本位に検討している。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活の情報を担当ケアマネジャーから得るとともに、本人、家族からの情報も合わせて総合的に把握している。入居準備の際も、新しい物では無く可能な限り、現在、在宅で使用中の物品を依頼し生活環境の変化を軽減するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に生活をしていく中で、生活リズム、残存機能、趣味・活動などが把握される為、入居者個々の能力を生かし安全な生活と安定のある精神面に配慮した日常生活を送って頂けるように努めている。		
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	第1に本人や家族の要望に応じた内容の介護計画とするよう努めている。 本人の残存機能や特徴、長所を生かし伸ばせる介護計画に努め、ストレスを感じない援助を検討している。医療面に関しては、主治医と相談しながら病状の緩和と安定に配慮した介護計画としている。	利用者、家族の意見や、職員の気づき等を踏まえ、利用者が出来ることを大切にした介護計画を作成している。計画の期間は3カ月を基本として、状況の変化があった場合は、その都度見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別活動記録の特記内容や日誌の生活相談事項、事故・ヒヤリハット報告書からサービスの必要性を考え、家族の意見を聞いたり、対応策案を伝えながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所介護（デイサービスセンター）が併設されているため、入居希望や相談に応じて入居前に通所介護を利用して頂き様子を観察したり、在宅復帰された後の援助として通所介護を紹介し利用して頂く取り組みを行っている。また、入居者のニーズに適した特養や老健を紹介し、本人、家族が選択できる取り組みを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や婦人会の方々、保育園児、ボランティアの事業所訪問や消防署員を招いての防災訓練、学校の運動会の見学や文化館での催し物の見学など、豊かな暮らしとなるよう援助している。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に受診について確認し、本人、家族の希望どおりとしているが、必要に応じて協力医院での受診も可能としている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医に受診するよう支援し、通院介助は基本的に職員が対応しているが、専門医に受診の場合は家族も同行している。受診結果については受診記録簿で共有している。月2回、協力医の往診を受けている利用者もいる。	
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院が24時間体制で訪問看護を実施しており、今のところ利用者はいないが事業所にとって心強い限りである。月2回の往診や特変時の受診で日頃の入居者の状態を把握している看護師であり、緊急時や夜間の入居者援助への取り組みも可能である。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、事業所での状態と服薬・既往歴など詳細に説明できるように緊急時個別ファイルを持参している。入院中も主治医・病棟看護師・家族から状況を伺いながら退院後の受け入れ体制の準備をしている。退院間近となった時点で再度主治医、看護師に状況を確認し、家族と相談しながら今後の対応と注意事項などの指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○<b>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に、本人、家族の意向を聞いているが、現在の入居者、家族は全員、病院での対応を希望している。</p> <p>事業所では、終末ケアの指針・マニュアルもあり、今後、看取りケアの希望があれば、協力医院と連携を図り取り組んでいく。</p>	<p>入居時に看取りに関する指針に基づき利用者、家族に説明し、看取りに対する意向を確認している。入院治療の希望がほとんどであるが、管理者は看取りの経験があり、医療機関と連携し、家族等の希望に沿って取り組む体制はできている。</p>	
34		<p>○<b>急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修や日々の入居者援助から学ぶ機会を持つとともに、職員個々が学習できるように必要な学習書・ビデオを用意している。また、応急手当に必要な物品の準備もしており、必要最低限の実践力は備えている。</p>	/	/
35	13	<p>○<b>災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の事業所の防災訓練と年1回の地域の防災訓練に入居者と職員が共に参加し、避難経路の確認や各災害マニュアルの災害連絡網に沿った訓練を実施し、災害時の対策をしている。</p>	<p>消防署の支援を受けて年2回避難訓練を実施しており、地域住民の参加、協力も得ている。地域の防災訓練にも参加している。非常用の食料等は隣接のデイサービスセンターと一緒に準備している。</p>	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○<b>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々のプライバシーや精神面に考慮した声かけ（促すでは無く勧め）と排泄用品への設置場所について、職員間で徹底し、氏名の入った記録や書類の取り扱いについても充分注意し、鍵付の棚で保管している。</p>	<p>基本方針に尊厳の保持を掲げ、職員に徹底し、日々のケアのなかで、トイレ誘導時はさりげなく声かけしたり、個人情報扱いに配慮するなど、プライバシーを損ねない取り組みを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ことある毎に、入居者の意思を確認し、行動や援助に移るようにしている。要望内容が支障をきたすような場合は、まずは本人へ繰り返し説明を行い、理解を得たり、家族に相談しながら対応を検討し、本人の意思を尊重していく方向で援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、大まかな1日の流れは有るものの、あくまで入居者のペースを大切にし、入居者の日々の精神状況に応じ、その都度対応・援助するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物の際に洋服を選んで購入したり、お化粧品やヘアスタイルなど、おしゃれ方法も入居者個々の個性がある為、個々に応じたこだわりを生かした援助としている。月1回の美容室の利用も支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会の際は対象者より食べたものを聞き、提供している。また、入居者自身が育てた野菜を自らが調理し食する事もある。調理から配膳、後片付けまでを可能な限り個々の能力に応じて役割分担を持って実施して頂いている。	法人の管理栄養士が作成した献立をもとに、利用者の意見を聞いたり、畑で栽培した旬の食材などをとり入れ喜ばれている。利用者は、買い出しや調理、準備、片付けなど、できることを職員と一緒にやっている。担当の職員も同じテーブルで楽しく食事をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックし摂取量が少なくなると、好みの食材や食品・栄養飲料などで対応しカロリーの確保に努めている。水分補給を1,800cc/1日と定め水分補給援助に努めている。必要に応じ飲む点滴飲料水などでも対応する。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケア援助の実施と昼食、夕食前の食前体操に取り組んでいる。口腔ケアは主に就寝前を強化し、デンタープラーク除去、消毒や舌苔除去、残歯プラーク除去の援助を徹底している。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿、排便感覚の無い方への対応として定期的に声かけし、排泄を勧めたり、トイレに誘導し、一部介助するなど、排泄サインを見逃さないようにして排泄の自立に努めている。夜間、トイレまでの誘導が困難な方はポータブルトイレを設置している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで排泄するよう声かけしている。紙パンツから布パンツに改善したり、尿取りパットの併用や、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、排泄の自立に向けて支援している。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を調理し、水分補給に努め、軽度な運動、腹部マッサージなどを心がけている。排便が困難な場合は、医師の指示を受けて整腸剤や緩下剤の服用も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ほぼ毎日実施している。昼食後しばらく休憩して13時半から16時頃までの援助としている。各ユニットの一般浴と個別浴の2つの方法で入居者に応じた浴槽で対応している。入居者の状態によっては、夜間入浴を実施することもあり、可能な限り個々に応じた入浴援助としている。</p>	<p>入居時に入浴の習慣や希望を聞き、午後の時間帯を基本に毎日入浴できるよう支援している。夜間入浴の希望があれば柔軟に対応している。入浴拒否の利用者には、時間をずらして声かけしたり、家族や協力医の協力も得て、週に2～3回は入浴できている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼夜の逆転防止対策として、日中の生活を充実する為、役割分担とミニレクリエーションの充実を図っている。また、軽度の運動として散歩や家庭菜園を実施している。食後の30分間程度は入居者個々が自由に休息を取っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>事業所で服薬管理を行い、正しく確実に服薬できるよう援助している。入居者個々が服用している内服薬、貼付薬を服薬リストから把握し、職員全員が理解して服薬援助をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>午前、午後のミニレクリエーションの実施と入居者個々の能力に応じた家事活動の役割を担ってもらうようにしている。間食や食べたい食材を購入し入居者同士が分け合いながら食べたりしてる。環境づくりにも参加し、入居者作品を掲示するなど喜ばれている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物や美容室の利用、病院受診など援助している。日々の生活の中で散歩の時間を設け、外出の機会としている。また、外出の行事計画書も立案し外出援助に取り組んでいる。本人の希望で、家族に相談し外出の有無を決めたり、家族へ依頼する場合もある。</p>	<p>毎日、事業所周辺を散歩するほか、利用者の希望に沿って馴染みの商店での買い物や週に1回ドライブに出かけている。また、季節の花見や行楽など、車椅子の利用者も一緒に出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理出来る入居者のみ家族が本人に渡し、入居者個々が支払いをしている。金銭に関しては家族の判断に沿って、小遣い程度を財布に入れて、職員の援助で買い物している場合もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の取り次ぎや、切手やレターセットの購入、ポストイン、代筆などの援助をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所内の清潔維持に努め、季節環境を行う事で、入居者に季節や行事を感じて頂けるように取り組んでいる。物品の整理整頓で安全面にも考慮し、室内は明るくし高齢者にも解りやすく対応している。また、温度、湿度管理や加湿器も冷風にするなど、入居者の安全に努めている。</p>	<p>食堂兼居間にはテーブル、椅子が配置され、畳コーナーや別室のソファで、思い思いにくつろげる共用空間となっている。また、壁面には職員の提案で利用者と一緒に作った干支等の作品を飾り、和やかで家庭的な雰囲気を醸し出している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにテーブルや畳コーナーで、テレビを見たり、ラジオカセットで音楽を聴けるようにしている。また、ユニット入口近くの応接セットでは、将棋や読書などして、ゆっくり過ごせるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、入居者の精神面に考慮し実際に使用していた物品を持参して頂くように依頼し、在宅生活との変化を感じない居室環境に努めている。(入居時、最低限必要な物品しか持参しない本人・家族が多い為、入居後も少しずつ依頼に努め、最低限でもカレンダーと時計を準備して頂く。)</p>	<p>箆笥やテレビ、仏壇や家族写真など、利用者が使い慣れた家具や馴染みの品物を置き、これまでの生活と継続感が持てるよう工夫している。あまり物が置かれていない居室には、職員がカレンダーを掛けるなど配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>認知症高齢者が使用するに当たってハード面ではオール電化やセンサー対応などの設備に配慮している。表示方法にも工夫し見えやすくしている。転倒予防で事業所内バリアフリーで手摺りを設置している。</p>		

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない



項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない